

研究課題番号	5RF-2202
研究課題名	国内河川における陽イオン界面活性剤の濃度予測手法の構築
研究実施期間	令和4年度～令和6年度
研究機関名	金沢大学
研究代表者名	花本 征也

1. 委員の指摘及び提言概要

コロナ禍で使用量の増えた抗菌作用を持つ陽イオン界面活性剤を研究対象にした着眼は評価できる。日本の河川水における陽イオン界面活性剤の挙動予測に関して、現場調査とその解析を実施して興味深い結果が得られている。研究の進捗に伴い、当初の目標とは異なる結果が得られたが、適切な計画変更をおこない、ほぼ計画通りの達成状況である。界面活性剤はその特性上、容器への吸着が回避できないが、この点に関しても十分な検討を行い、損失の少ない方法を採用している点は評価できる。今後は流域での使用量や流域内挙動から予測濃度と計測濃度との比較等を行い、物質収支の解明、未処理生活排水、畜産、自然減衰等などの要因の寄与が推定されることを期待する。成果の積極的な公表も進めていただきたい。

2. 採点結果

評価ランク：A